

## 第2回宮古市立地適正化計画検討有識者会 議事概要

- 日時：令和5年1月20日（金）14：30～17：00
- 場所：宮古市市民交流センター2階 多目的ホール
- 次第
  1. 開会
  2. あいさつ
  3. 報告
    - (1) これまでの取り組みと今後の予定について
  4. 議事
    - (1) まちの現状・課題について
    - (2) アンケート調査について
    - (3) その他
  5. その他
  6. 閉会

### 〔参加者〕

有識者会委員：南会長、宇佐美副会長、北原委員、屋井委員、姥浦委員、若江委員、伊藤（貢）委員、伊藤（重）委員、竹花委員、芳賀委員、佐々木委員、藤島委員

事務局【都市計画課】：藤島部長、盛合課長、中野係長、田道主査、花坂主査、高屋敷主任

【（株）エイト日本技術開発】：島、奥谷

### ○質疑応答

#### (1) まちの現状・課題について

副会長：バスの1本以上10本未満の区分について、例えば一日2～3本と7～9本では性格が異なると思う。10本未満でもどの辺りに集中しているのかが気になった。人口減少について、宮古の場合は男女別に年代で動きが違うということもこれまでも伺っている。特に女性は就職を機に出ていく傾向にあると思うが、そのような整理はされているのか。

事務局：バスの1本～10本の間で何かあるのではないかという点については、分析したいと思う。人の動きに関しては、男性女性ともに地区で言うと盛岡市への転出傾向が強く、特に女性はその傾向が大きい。男性は盛岡を超えて仙台など県外へ出る傾向にあるが、女性の場合は盛岡市へ転出が多い傾向がある。

副会長：以前、女性は岩手にとどまらず東京に行くことが多いと伺っていたので、こういう結果が出るほどというふうに思った。やはりこのような動きをみることも大事だと思った。

委員：公共交通のデータの分析については、前回と比べて詳細に分析していると思う。新里や田老などのコミュニティバスと県北バスなどが区分されていないように思うが、どのように整理されているのかお聞きしたい。

事務局：公共交通の人口カバー率を算出する際に、県北バスと地域バスを一緒にしてしまっているの

で、地域バスと県北バスを分けて分析をしていきたい。

委員：震災後の公共交通活性化の計画に関わった時の記憶から申し上げると、バスの10本未満のデータについては、5本に足らないところと、10本に近いところのサービスの差は大きいと感じる。一方で、当時からスクールバスや医療関係のバスなど、広く見たときの公共交通としてのサービスを何か確保しようという取り組みや検討が行われてきている。そのあたりを含めて、今の市民に対してのサービスはどのくらい提供されているのかというデータがあると更にいいと思う。また、人口関係については、大学に進学すると大きな都市に出て卒業後に一定数帰ってくるという傾向が他の地域でもあるが、今日の資料で特に2010年から2015年にかけては震災後に仕事などで来た方々の傾向がはっきり見られる。その後5年間でどのくらい減っているのか、ある程度残っているのかというようなデータが見えてくると、大きな災害があった後にどういう復興の形をしているかによっても様々な違いが出てくると思う。

事務局：地域の公共交通について、ご意見を参考にさせていただきながら更に分析をしていきたい。人口は2015年以降のデータも分析していきながら、復興が収束していくとどうなるのかという部分も捉えていきたい。

委員：農地の減少について、立地適正化計画を作るための資料として使うためには、どこで減っているのかが見えるといいのではないかと。年齢階級別の人口減少については、絶対数も重要であると思うが、絶対数では若い人の流出が減っていて良くなっているようにも見える。これは人口そのものが減少している影響が大きいと思うので、割合でも分析してみてもどうか。また、地区ごとのデータもあると良いと思う。最終的には市全体の空間をどうするのかという話で、そのための基礎情報を整理しているということだが、そこに役立つような資料になればよいのではないかと。

事務局：農地推移については、どういう場所が変わって行っているのかが時系列で見えるように施整理したい。人口の増減についても地区ごとに整理して傾向を見たいと思う。

会長：公共交通について一日1本未満の地域など厳しい話に見えるが、立適と重ね合わせることで公共交通を維持していくような手立てを、どの路線かというのは具体的な話になるかもしれないが、そこをしっかりと確保することで、まち全体の公共交通のサービス水準を維持できるのかということが見えてくるとポジティブな方向に捉えられるのではないかと。人口の問題はこの後の話に繋がってくると思うが、立適あるいはまちづくりの視点から見て、働く人の人口、学ぶ人、子供たちなど、そういうものをポジティブに作り出していくというふうになればいいと思う。

委員：産業について、2018年以降に大きな動きがあると思うが、より新しいデータを整理することは可能か。

事務局：新しいデータが出次第、比較していきたくて考えている。

委員：各産業の平均年齢の変化について興味がある。平均年齢が高いと産業が衰退していくなどの推測ができると思うが、データとして整理できるのか教えて頂きたい。

事務局：農業や林業に関しては収集可能であったが、建設業や他の産業に関してはデータが収集できるか確認したい。

委員：宮古市のデータについて細かく整理していると思う。問題は戦略としての立地適正化計画をどう料理していくのか。その議論はデータだけではできない。この中で何をクローズアップし

て、何を計画のポリシーに繋げていくのかという議論をしていく必要があると思う。

事務局：まず、我々自身が宮古のまちのことをしっかり把握する必要があるだろうということで様々なデータを整理してきた。ご指摘の通りデータを並べただけでは立地適正化計画にはならないので、立地適正化計画に対してどうまとめていくかという観点もそろそろ持ち始めなければいけないと思っている。次回までには計画の方向性を含めてご議論いただけるように準備したいと思う。

委員：産業のところで、特化係数をまとめたというのは重要な視点だと感じた。震災前に電子部品系の特化係数がかなり高いということは知らなかったが、震災後に縮小しているのは、赤前や津軽石は大きく被災しているので、そこにあった工場が復興できていないところもあるかなと思った。電子系・デバイス系に対してどういう復興・ビジョンを描いて、そこをまた発展させていこうとしているのか。それに対して議論があればいいのではないかと思った。また、CO2削減やエネルギーの関係も地産地消の議論があって、それに組み込まれている。様々な面で課題はあるがそれを続けていこうとしているところは非常に重要な点であり、おそらく宮古の将来に考えるときに重要なポイントの一つであると思っている。我々がヨーロッパの小さなまちを素敵だと思いながら見学ツアーに行ったりするようなことは、そのまちが独自の路線で環境に配慮して、そういう部分がビジネスだけではなく様々な魅力に繋がる場合もあるので、2050年に向けて日本が取り組んでいく中では、重要な事であると思っている。資料のBAUケースの図について、産業や業務部門のCO2排出量が将来減っているのに対して家庭部門が減っていないのが気になった。

事務局：電子部品デバイスの特化係数について、2010年、2018年どちらも宮古市においては上位にある。差が生じているのは、震災後に2箇所の工場が市外（山田町、盛岡市）に移転したことの影響ではないかと思われる。これらは、宮古市の得意な産業であるといえるので、位置づけをしっかりとしていきたいと思う。CO2排出量に関しては、精査したいと思う。

委員：様々な事項を詳細に整理されているが、全ての項目を掘り下げることは難しいと思う。市全体で重要なこともベースとしてあると思うが、ポイントはそれを空間的にどうもっていくかというところと、どうリンクしていくのか、そこにリンクする項目をスクリーニングした方が計画に役立つのではないかと。例えば、エネルギーに関することであれば、エネルギーの立地適正化計画というものがあると思う。昨今風力発電が様々なところで問題になっているが、それと集落との関係をどうしていくのか。バイオマス発電の場合は、温泉施設や特養など関係する開発を周りに集めて、エネルギーを供給していく。そういうことも考えられる。離すのかくっつけるのかという空間をどうするのかということが重要ではないか。産業についても、工場の立地についてもまとめていくのか、そのためにはどういう空間をつくっていくのか。もしくはその必要がないのか。どういうものが立地に関係するのか、しないのかがポイントとなるのではないかと。空間戦略に関係するものはぜひ掘り下げて頂いて、そうでないものについては、状況を把握する程度でいいのではないかと印象を持った。

事務局：今後はポイントを絞るという観点も持ちながら進めたいと思う。

会長：本日提示されたデータで、改めて宮古市の地域的な多様性が浮かび上がってきたように思う。宮古市は様々な輝く場所を持ったフィールドミュージアムのようなイメージを持った。子供たちがそのようなことを意識しながら育っていけば、住み続けたいと思ったりここで活躍し

たいと思ったりできるのではないかと思った。また、マイナス面ばかりをみる必要はなく、例えば公共交通に関して、バスの本数が少ない、乗客がいないなどマイナスにも見えるが、そのような地域はもともと多く存在していた。蓄えて暮らしていく力や知恵があり、元々そこに暮らしていた訳だから、マイナス面を平均値化して不便さ強調し、あまり悲観的にならないようにして頂ければと思う。

## (2) アンケート調査について

委員：問 11 の図への書き込み箇所に、書き込みやすくなるような記入例があったらいいのではないか。

事務局：アンケートに取り入れさせていただきたいと思う。

委員：問 11 について、図に書けなくてもいいのではなかと考えた。それぞれの人がいいと思ったことを自由に書けるようにしてはどうか。高校生アンケートについてはやり方によって傾向が変わってくると思う。宮古市の多様性や良さがしっかりと伝わるような教育がなされた上で将来のことを考えてもらおうと、県外に出ても宮古市のいいところに関して学んでいけば、また宮古に戻ってくる人もでてくるのではないか。

事務局：アンケートの工夫については、取り組んでいきたい。また、宮古の良さというものをまず子供たちに知ってもらった上で宮古の将来を考えるということはとても大事な観点だと感じた。

委員：最近の小中学生に対して地域の学習の取り組みができてきていると感じている。震災のことや復興した宮古の特徴に関しても学ぶ場が非常に増えてきた。今後の子供達の成長において、非常にいいかたちが最近はできてきているのではないかと感じている。

委員：問 10 に関して、「移動できる距離」と聞かれたときに、物理的・身体的な距離なのか、我慢できる距離なのか、歩きたいと思う距離なのか、季節よっても感じ方の違いが出ると思う。何を聞きたいかというのを明らかにしなければ、得られたデータがアンケートの回答として使いづらいものになるのではないか。

委員：2月に調査すると、歩くことを考えたときにイメージが変わってきてしまう。逆にどこまで歩いてみたいかという希望を書いてもらわないと、どんどん狭まってしまう可能性はある。

事務局：この設問について聞き方も含めもう一度考えたい。

会長：教育の地域を学ぶ機会に関連して、地域を学ぶという取組をされるのであっても、どんな価値・魅力があるかというのを、専門家や外部・市外の方にも聞いた方がいいのではないか。市民アンケートはこれでいいと思うが、別の視点として宮古市を知っている人に聞いてみるなど別の機会にやってみてはいいのではと思った。

委員：宮古市が復興関連の教育で成果を出されているのは報告書などで拝見しているが、資料 2-6 のように、域外からお金を稼いでいる産業が何かなど、普通の学校教育では学べない宮古のいいところがなかなか伝わりづらいところがある。そこは子供達に地域のことを考えると教えていかなければいけない。復興関連はよく学んでいるが、その点に関しては弱いと感じている。

委員：買い物アンケートに関連して移動販売についてはまとめているか。

事務局：どこを回っているのか、どのポイントで停まっているのかを調べて図面に整理している。

会長：多方面に全部深掘りするのではなく、どこかで絞っていくという方向で検討して頂ければと思う。

(3) その他

事務局：特になし。

以上

